

美術年報

1990



徳島県美術家協会

は じ め に

本会の一大行事である第44回県美術展も第23回県芸術祭の主催行事として、平成元年11月11日（土）～16日（木）を第1期として書道部門、平成元年11月18日（土）～29日（木）を第2期とし、日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・デザインの6部門で開催されました。

今回展には2,491点が出品され、入選率が39.6パーセントで986点が入賞、入選しました。入場者数をみると横バイ状態ではありますが、なかでも小中学生の入場者数が減少していることは、何か世相を反映しているようでは考えさせるものがあるようです。ご出品の皆様、役員並びに関係者の皆様に対して厚くお礼を申し上げます。

さて、本県には美術館がありませんでしたが、いよいよ平成2年11月には文化の森に「県立近代美術館」としてオープンします。それに先がけて、平成元年3月11日から26日まで県郷土文化会館で「県立近代美術館収集作品展」（プレビュー2）が開催されました。この作品展には、昭和62年2月の「プレビュー1」として開催されたあと収集した1,588点の中から、現代美術秀作83点が展覧され、オープンを前にしたイベントで、美術ファンにとっては興味をひく催しでありました。

各部会でも美術振興のために、新作日本画展（日本画部）、第4回洋画部会員展（洋画部）、写真部作品展（写真部）などが開催されました。個人では彫塑部の松永勉氏がH・ムーア大賞展に入賞したことが特筆されると思います。

残念なことは、博物館が文化の森へ移転するため、会場が使用できなくなり、長く県民の方々に親しまれてきた春の県展と呼ばれた「博美展」が第29回展をもって終了せざるを得なくなったことであります。

今日のような協会の発展も、各部会の基礎ができているもので、各部会の役員の方々のご労苦に感謝を心から申し上げる次第です。

終わりにになりましたが、会員の方々にもご健康で、協会及び部会活動にも御協力賜りますようお願いいたしますとともに、『皆様方のますますの御活躍をお祈り申し上げます。

平成2年3月

県美術家協会事務局

徳島県美術家協会規約

昭和23.9.12	規約制定
32.7.14	新規約制定
33.4.29	規約一部改正
42.4.23	〃
46.4.29	〃
47.5.29	〃
49.8.22	〃
52.7.23	〃
56.5.5	〃
58.6.5	〃
61.6.21	〃

第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし、県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫塑
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (ハ)展覧会 (ニ)講習会 (ホ)講演会
(ヘ)観光美術の振興 (ロ)その他必要な事業

第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

- 会 長 副会長(2名)
理 事(若干名) 監 事(2名)

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から4名以内推せんする。役員の任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員の選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、31名以上の部にあっては、さら

に10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

- 部会長・委員(部会員数の3割以内)
部監事(2名)

役員は部総会で選出する。役員の任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員の選出その他重要事項の審議を行う。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり1,500円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,000円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館(現在の県立図書館)内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会パッチを選定(図案は塚塚副会長)

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名~4名)によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。

昭和63年度 事業報告

- (1) 総 会
 - 昭和63年 6 月26日
 - 県土文化会館 第7会議室
 - 昭和62年度事業報告及び決算報告
 - 監査報告・承認
 - 昭和63年度事業計画及び予算審議
 - その他
- (2) 理 事 会
 - 昭和63年 4 月30日 昭和63年度総会開催など
 - 昭和63年 9 月24日 県展について
 - 平成元年 3 月 4 日 役員改選問題について
- (3) 第43回県美術展
 - 第1期 昭和63年11月12日(土)～16日(木)
書道の475点展示
 - 第2期 昭和63年11月18日(金)～23日(水)
日本画・洋画・写真・彫塑・美術工芸・デザインの580点展示
 - 第43回展受賞者表彰式
昭和63年11月5日(土) 新聞放送会館
- (4) 第29回博美展(県博物館共催)
 - 第1期 63.5.18～22 洋画・彫塑・工芸
 - 第2期 63.5.25～29 写真・デザイン
 - 第3期 63.6.1～5 日本画・書道
- (5) 県美術講習会(県教委共催)
 - 昭和63年 8 月28日 徳島市中央公民館
 - 講 師
理事 河 崎 良 行 氏
" 濱 口 恵 氏
" 鎌 田 邦 宏 氏
 - 内 容 モデルを使った人物デッサンの実技講習
- (6) 美術年報の発刊
 - 県展記録、各部門の歩み、会員名簿など
- (7) そ の 他
 - 第43回県展運営委員会・県展事務局会議(63.6.11.元.2.4)
 - 県芸術祭移動県展
三加茂会場(63.11.26～28)
牟岐会場(63.12.1～6)
- (8) 各 種 後 援
 - 創立40周年記念第47回書芸院展 (63.4.7～4.10)

- 第3回城南高校OB芳墨書道展 (63.4.29～5.1)
- 田中柏翠書展 (63.5.2～5.4)
- 村上凌雪墨翠展 (63.5.12～5.16)
- 第26回成蹊書道会展 (63.5.13～5.15)
- 第12回全美展 (63.5.20～5.23)
- 第2回四国女子大学書道コース教員作品展 (63.5.20～5.22)
- 第11回写真同人「炎」作品展 (63.6.10～6.12)
- 第47回世代美術展 (63.6.24～6.27)
- 第3回正鋒会書作展 (63.7.8～7.10)
- 第44回新作日本画展 (63.7.8～7.10)
- 17人展 (63.8.5～8.8)
- 美術文化徳島グループ展 (63.8.25～8.29)
- 第48回書芸院展 (63.9.1～9.4)
- 第18回直心会書展 (63.9.2～9.4)
- 玉城乾香書作展 (63.9.9～9.11)
- 第6回チャリティー田中双鶴書作展 (63.9.9～9.13)
- 第17回徳島雪心会書作展 (63.9.15～9.18)
- 第18回東玄書道会展 (63.9.15～9.18)
- 第43回青美展 (63.9.22～9.25)
- 第27回成蹊書道会小品展 (63.11.7～11.9)
- 第23回徳島清潮書道展 (63.11.28～11.30)
- 第4回春彩会日本画展 (63.12.2～12.4)
- 第17回歳末チャリティー色紙・作品即売展 (63.12.16～12.18)
- オブジェ展 (63.12.21～12.25)
- 巳展—干支「巳」展 (63.12.23～64.1.4)
- 第8回清水壺俣油絵個展 (63.12.22～12.27)
- 第15回桂鳴書道展 (平成元.1.20～1.22)
- 第18回四国女子大学書道クラブ学外展 (元.2.3～2.5)
- 四国女子大学文学部書道コース卒業制作展 (元.2.14～2.16)
- 江戸の華浮世絵名品展 (元.3.16～3.28)
- 第18回ナルトびんぼけクラブ写真展 (元.3.19～3.21)

徳島県美術展開催運営要項

第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展（県展）と称し広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより 県内美術愛好家の製作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

第2条 (主催団体)

本展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

第3条 (開催運営の組織)

本展を開催運営するため、基本事項を審議決定する「県展運営委員会」と主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の各分会から2名、県教委文化課から2名、徳島新聞社4名の合計20名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 県展の開催運営の基本事項について審議決定する。
- 2 審査員候補の推せん。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認。
- 5 その他

〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各分会から2名、県教委文化課1名、徳島新聞社2名の計17名でこれを構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備。
- 3 審査員の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇などに関する準備、手配。
- 4 収支予算案の作成。
- 5 開会式、表彰式の準備。
- 6 広報PRに関すること。
- 7 その他下準備に関すること。

第4条 (出品部門)

県展の出品部門は日本画、洋画、写真、彫塑、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から

- 1 一般公募作品のうち主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品（入選作品）及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。
その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。
- 2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

- (1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。（ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格）

◇次のものを無鑑査とする。

- (1) 特選を連続3回得たもの。
- (2) 年間を問わず特選を4回得たもの。（ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選の受賞のないときは失格）
- (3) 年回を問わず特選又は準特選を6回得たもの。（ただし、年回の間が5年を経て、その間に特選・準特選の受賞のないときは失格、特選1回と準特選5回、特選2回と準特選4回、特選3回と準特選3回、準特選6回の場合とする）
- (4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

- (1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。
(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。
② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。
③ 40回展までの準特選は2回をもって特選と同値とする。

第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会の各部会から一定数の人数を推せんし、この中から事務局で選任作業を行い県展運営委員会の議を経て決定する。

第7条 (審査)

審査は公開により行う。

第8条 (入選、入賞数)

- 1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

部 門 区 分	特 選	準特選	特 別 賞	入 選
日 本 画	2	3	徳島新聞社長賞	若干名
洋 画	3	5	四国放送社長賞	〃
写 真	4	8	徳島県美術家協会会長賞	〃
彫 塑	1	2	徳島県知事賞	〃
美 術 工 芸	2	3	徳島県議会議長賞	〃
書 道	6	13	徳島県教育長賞	〃
デ ザ イン	2	3	徳島市長賞	〃

※特別賞は各部門とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。賞はいずれも同格で毎年部門により1つつつ順位を変更し賞を贈ります。

2 入賞は1人1賞とする。

第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金5万円
- 2 準特選……賞状、賞金2万円
- 3 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 四国放送社長賞 1名
- 2 徳島県美術家協会会長賞 1名
- 3 徳島県知事賞 1名
- 4 徳島県議会議長賞 1名
- 5 徳島県教育長賞 1名
- 6 徳島市長賞 1名
- 7 徳島新聞社長賞 1名

※特別賞の選考方法については別にこれを定める。

第10条 (収支予算)

本展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

本展の支出経費は事務局長の承認を経て行い必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2

月に開く運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 (出品料)

県展の出品料は次の通りとする。

- (イ) 美術家協会員は1点2,200円、2点目から1,100円とする。
- (ロ) 招待、無鑑査、特別出品者は1点2,200円とする。
- (ハ) 一般の方は1点3,300円、2点目から1,100円とする。

第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

一般・大学生	前売り	420円	当日	520円
高校生	前売り	200円	当日	300円
小中生	前売り	100円	当日	200円

第13条 (附則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は県展運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

第44回展の記録

会期 (第1期)平成元年11月11日(土)~16日(木)
 (第2期)平成元年11月18日(土)~23日(木)
 会場 県郷土文化会館

日本画

〔審査員〕	平川 敏夫			
〔招待〕	荻野 行夫	長尾 弘子	村上 凌雪	橋本 正弘
	田淵 冬湖	中川 健	矢野 秋溪	岡 英彦
〔賛助出品〕	篠原 三叢	森 薫苑	高田 瑞雪	釣島 冬樹
〔無鑑査〕	土方るみ子	土井 洋子		
〔特選〕	鶴 悦子	西野 和男		
〔準特選〕	金子 綾子	泉 修一	中西 芳雄	
〔入選〕	小笠原豊雄	魚井 恭子	岡本 君代	藤原 満代
	福田佳代子	高田 愛子	木内 トシ	林 幸子
	坂本美代子	佐藤 晴子	今出 時子	前川 信江
	三好 澄子	松野 寛枝	香山 清子	明石 興子
	伊藤 晴子	美馬 郁子	斎藤 誉	斉藤 久代
	濱口 芳春	福岡ムメコ	高原 源一	岡本智津子
	永井 貞枝	江上 豊	土肥 弘江	三好 秀雄
	長尾恵津子	柳田 一子	吉坂美智子	逢坂 洋史
	川崎 博之	長谷 寿	赤川 桂子	岩瀬 洋子
	上田 美穂	萩野 拓郎	北島 節子	後藤田 実
	原郷由美子			

洋画

〔審査員〕	赤穴 宏			
〔特別出部〕	長井 公雄	佐野比呂志		
〔招待〕	永山 隆二	清水 函典	秦 文雄	中川 隆史
	川原 康孝	楠瀬 等	高橋 敬	立岩 巖
	露口 敏幸	服部 裕	長尾 弘久	
〔賛助出品〕	浅田 二郎	天野 節	今田 史男	大神 良代
	岡 多実子	柏木 雅雄	河田 安市	黒崎 志郎
	後藤田仁一	鈴木 勝次	武市善次郎	津地 威汎
	板東 俊一	榊田 務	松川 寛	

〔特選〕	尾崎 幸代	林 伸也	霜田 精奏	
〔準特選〕	近藤 英憲	大石久美子	桐島 豊子	森 直哉
	鈴木 明雄			
〔入選〕	坂東 公恵	正木ツル子	井沢 忠昭	杉本 英子
	武市 雅博	蔭川 敬二	宮本 茂彦	水間 利生
	福本 武子	島川 君子	小島 真弓	乾 繁春
	三谷多美子	笹田 興一	志摩 政照	三木 俊一
	南城ミツ子	岩佐 博久	吉永 房子	岡田 信一
	竹中ヒロコ	岩佐 千代	田渕 浜子	金岡 義和
	笹川 五月	宇田見由美	芝田 良子	藤原タマエ
	薦 有賀里	福良 哲子	秋山ゆたか	村本恵美子
	谷 節子	浜尾みつこ	福富 正二	峯 幸子
	麻植 尊正	山沖 欣子	佐々木 超	毛利 谷子
	藤野 貴子	村上 孝枝	松本 孝子	前田 道代
	原田チエ子	仁木 幸子	北 美智子	尾崎 孝幸
	青木 幸子	佐藤 敬子	藤岡ひとみ	桑原 健一
	諏訪由美子	大坂美知子	白石 謙二	真野 孝彦
	川端美代子	三谷ミヤ子	前野 亮治	金原 和美
	桑原 純子	島村 英之	西川 敬子	下内 裕次
	騎馬 政美	越久 高照	加島 由季	谷崎 泰江
	西川 周三	清水 新也	生田 孝夫	辻野 正廣
	嵯峨 潤三	小川淳一郎	島上 二郎	大黒 文裕
	麻植 稔江	宮田 京子	山下 峰史	河内 幸代
	藤本 晴子	新居 由香	小島 忠好	美馬 俊夫
	松浦 節子	尾形 正二	平尾マサミ	石井佐和子
	大西 道夫	笠井 鎮子	武知千津子	長尾 久子
	藤田 倫子	野村 雅子	浜田 道代	久長 範子
	後藤さおり	後藤エリ子	浜 智佳子	吉岡 章子
	大西 文代	三好 初子		

写 真

〔審査員〕	高田 誠三			
〔特別出品〕	福島 正仁			
〔招待〕	増田 清次	井上 光雄	木田 英之	西條 征二

	勝西 雅夫	藤井 梵	武内 亨	櫛淵 魏
	酒井 博司	三好 和義	上野 照文	森 賢一
	橋本 圭祐	安長 剛		
〔無 鑑 査〕	前浦 芳久	古井 謙吉	井藤 光章	
〔特 選〕	尾崎 利男	荒井 賢治	柳本 正	
〔準 特 選〕	中川 定典	関口 務	佐野 辰夫	船越 正文
	高木 勝治	森住 博	大和 健司	中野 健吉
〔入 選〕	中川 定典	新居見萬幸	櫛淵 紳哉	宮城 高士
	佐治 孝	佐治利弘(2)	増田 寿(6)	佐野辰夫(2)
	森川 浩司	宮本繁広(2)	椛山吉五郎	大館 芳宏
	船越 正文	井上憲治(3)	森住 啓	広瀬 貴司
	田中昭男(2)	森 健二	尾崎利男(3)	伊達 照子
	林 久雄	斉藤 剛	稲井芳男(2)	福田 源吉
	武知 良和	さとう元雪	板東 鶴雄	坂田穂氏(3)
	宝積 辰男	坂東 進	板東敏晴(3)	村沢 義清
	小川 勝	樫原 美芳	田所 勲(2)	杉本 福
	森住 博(7)	高藤敬堯(4)	前坂祥文(3)	荒井賢治(8)
	梅本貞範(6)	大和健司(9)	武知正昭(2)	土橋成行(3)
	平野史子(3)	国見良幸(10)	宮本幸治(2)	大津勝治(5)
	山口元彦(3)	真田 幸隆	粟田一衛(3)	益田展行(7)
	久保英樹(4)	林 敏彦(4)	田村泰弘(4)	折野 理悦
	柳本 正	岩本 忠幸	岡田 晃一	大野 武(4)
	大野泰子(2)	今出 弘	中村 敏雄	長谷昌男(2)
	清水定七(2)	小山 秀夫	笹本靖夫(4)	河崎 新(2)
	久米健雄(2)	前浦正広(3)	松繁 真魚	足立 洋規
	井原 宏(2)	柴田敬二郎	塚原真澄(3)	野藤敏美(4)
	中川 賢二	富永 仁一	富永 章子	中野健吉(8)
	井上 翔(2)	高田 為一	椎野 正彦	

彫 塑

〔審 査 員〕	山崎 猛			
〔特別出品〕	河崎 良行			
〔招 待〕	佐藤 隆	濱口 恵	井下 俊作	鎌田 邦宏
	松永 勉			

〔特選〕	福島 隆資	小林 正則		
〔準特選〕	山上 正一	沢井 良昭	小原 朝子	居上 真人
〔入選〕	美馬 智子	岡田 紀子	坂東真由美	福家 治
	葛西 優子	の場奈津子	西岡 友美	花待 智子
	杉本 真澄	粟田 治	前野 恵子	川真田武夫
	林 伸也	森本 美鶴	萬 知恵子	西原 陽子
	加地真紀恵	加藤美津子	南 清子	新田 香織
	中山 直之	三木 健司	西岡 由恵	東 光司
	別所加奈子	益田 耕次	蒔田 寿	河崎 直美
	清水 愛恵			
	谷 礼子			

美術工芸

〔審査員〕	三浦小平二			
〔招待〕	新居 猛	高橋 勇	森 昌男	森 浩
	七條猪三郎	多智花佐代子	松下 雄介	松下 慶一
〔無鑑査〕	森 賢一			
〔賛助出品〕	村上 正典			
〔特選〕	犬伏 絢	上村 宣道		
〔準特選〕	根岸 啓子	喜田 久子	橘 恵	
〔入選〕	池北 久子	中筋千代子	仁尾 郁代	藤井 哲信
	林 宣子	鴨川美佐子	伊豫 義之	山口 博子
	森野 久子	後藤田喜一(2)	斎藤 和彦	藤本善太郎
	井村アイ子	佐藤 勝子	上田 文子	福本アヤ子
	清澄 和也	吉田 敏明	寺西 員代	森 里子
	山田 和子	徳川 道泰	堺 都美子	篠原 利信
	大山美代子	後藤 隆樹	喜田 久子	高田 邦男
	橋本 嘉広	篠原 紀子	戸田 智	大西 義浩
	谷 育子	野田美代子	松山 豊	小栗加代子
	浜口 武夫	綱木 麻雄	石原美都子	丸居 哲雄
	山本 和子	井後 宏	平井 恵子	三井 八郎
	永山 昭一	吉田 晃子	久門美代子	山下 美幸
	志磨 好美	青木 房江	小出 里香	浜川美笑子
	平岡美奈子	岡谷あかね	石井芙美子	前野 亮治

森 行雄
立川ツネ美
新井 靖彦

森 明治
田村 祐子

春本三次郎
太田 裕子

岡崎 益子
森 悦光

書 道

〔審査員〕

花田 峰堂

小山 素洞

東地 滄匡

〔特別出品〕

荒井 天鶴

田中 双鶴

田中 栢翠

〔招待〕

西岡 楚峰

久保 幽香

新居 藍州

讃岐 泰泉

宮井 青雨

長原 阜鵬

高原 清泉

西 南竜

成尾 莊秀

渡辺 草石

長江 清幽

原田 霄月

芝原 醒鶴

前川 古舟

清水 桂月

美馬幾美賀

春藤 大耿

岸 潮風

中谷 史子

長谷 美峰

勝瀬 景流

川上 虹泉

三間 好鸞

近藤 静苑

上田 溪水

日下 溪翠

岡島 順子

荒井 彭仙

竹田 和代

山口 華城

藤若 美風

〔無鑑査〕

島田 小園

武市 鳴雲

中尾 勝子

坂本 霄風

〔特選〕

隅田 英二

大石 征也

松本志津子

吉岡 實

高岡 清

林 浩一

〔準特選〕

南 勝雄

山城美三子

佐藤真治郎

富久 和代

西浦 智頼

薄田喜代子

清水 嘉子

枝川 照子

多田 房子

浜 佳子

永松 照美

大島 清子

山田 幸司

★ 漢字の部

〔入選〕

宇田 長末

大松 洋子

加藤 玲子

浜田真由里

曾川 由明

小松 美佳

鳩成 広美

日下 司子

藤川 智子

坂東 武

藤村 恭子

高田 孝子

沖田 章代

福井 民代

奥野 信夫

坂東 英司

高田 知子

菱崎 信義

赤松 茂幸

馬居美智恵

日下 正男

富永泰寿子

鈴木エリ子

射場 博子

高原 智世

久米アサ子

田上 洋子

小井田境子

黒橋由加里

逢坂小由里

亀石 二三

川村 真澄

吉川 晴美

寺内 金子

福家 佳奈

松食利栄子

徳永めぐみ

加山 真規

江川 栄子

笠井 宣江

横田 岩夫	神原 芙佐子	山地 靖子	扶川 治子
武市 哲也	松下 寅雄	岩佐 弘子	笠井 美智
相原 美香	鈴木 シゲコ	大櫛 宏子	中野 真希
佐渡 佳子	黒田 鶴恵	野田 幸子	辻 道子
牧野 美弥子	斎浦 るみ	福永 久美子	原口 栄子
新居 邦夫	久積 晃	富士 あい子	速川 孝恵
黒田 美穂	秦 照子	吉本 和代	坂東 济子
山本 きよみ	大下 富江	森 茂生	小西 文雄
武市 敏紀	岡島 倍子	河野 多美子	小松 文男
小西 貴美子	高井 初子	松浦 幸子	南 知枝
岡田 幸子	川村 兵一	宇山 安俊	黒田 早苗
山本 数馬	能仁 佳仔子	以西 寛敬	海原 進
駒田 澄子	椎野 博	八木 澄江	田中 久恵
佐伯 順子	松下 守	高原 優子	河内 英見
細川 美佳	尾方 由香	村沢 健太郎	表原 輝美
吉田 益義	田村 実	大塚 唯士	奈木 邦夫
藤田 喜美代	豊浦 佳子	長江 達造	馬淵 直枝
高田 由里子	中村 昌弘	生田 茂子	西田 佳代
吉成 啓一郎	田村 栄子	西岡 詩朗	浅川 陽子
有井 清	伊勢 嘉代	吉平 順子	富山 雅美
島田 由江	山尾 素文	古林 糸子	佐藤 博子
島田 郁子	安田 ひろ子	中川 富量	宇野 大平

★ 仮名の部

〔入 選〕	岡田 妙子	中野 春江	由利 里子	中西 甫子
	松永 裕子	須藤 和子	広島 章子	下村 清子
	岩田 いち子	笠井 宣江	阿瀬川 寛司	小出 圭子
	住友 優子	神野 いずみ	田上 貴実子	谷内 恵子
	亀谷 二三	水口 尚子	井川 幸子	池内 直子
	市原 瑞江	稲井 知子	魚井 イチ子	梯 葉子
	清村 宗子	久次 米公代	小井田 境子	古郷 弘江
	西谷 公子	福島 由子	富士 明美	山中 真紀
	湯浅 千恵	吉本 道子	高畠 正雄	樫原 孝子
	米津 秀信	尾田 艶子	増田 愛子	武市 勝恵
	津田 尊子	竹中 喜代子	後藤 田公基	三浦 富美代

近藤マサエ	岩崎 敬子	井川 敏子	大野 照子
重本 忠雄	稲井 国雄	藤川 円子	吉田 知代
山口 美恵	根津不美子	上田 久恵	徳山 正光
猪子 智代	水口 久枝	新田龍太郎	森 裕美子
赤川久美子	板東 準子	大松 静子	大松 洋子
武田 知子	福井 民代	大野香代子	宮城 明子
河野紀代子	宮守 とみ	福良美代子	椎野 国子
川下 四郎	祢木真佐子	高谷 和子	佐川 公子
田中 久恵	吉田美重子	増田 恵子	佐藤 尚子
吉田 幸代	井内 滋子	阿部 博子	吉田 良枝
吉見ひとみ	江本 良江	福田世津子	播磨 恭子
伊東 重子	炭谷 嘉子	山本 恵子	瀬藤 豊子
坂田美智子	三津 栄子	吉成真由美	港 美智代
大橋亜希代	三原 昌代	湊 泰子	久住 律子
浜田千鶴子	坂口貴美子	木村 弘子	岡本 美紀
株本アサノ	中村三和子	矢野 一代	藤原 育代
国見美恵子	河野 静江	大西 徳子	村口 透
若島 恵里	南方 美佐	西野 裕子	金崎真由美
溝淵久美子	松重 早苗	浜本 祐子	高田 美穂
鈴島栄都子	重実 知子	近藤 美香	片山恵美子
内田 桃子	菖蒲 和代	磐崎 恭子	若木 恭子
小河 静香	杉本千枝子	中筋 良江	別役千代子
中筋 滋子	森本 益江	山中 真紀	大塚 俊美
富士山市子	伊豫 亜希	近藤マチ子	森 弥生
大西 順子	中田 幸子	三ツ井澄子	大島 弘子
平田 節子	益田 昌子	遠藤 由子	井上 まり
竹内 英子	炭谷 恵子	木田 嘉子	辻本 尚美
宮本マサコ	多久美知子	田村富士子	近藤夫佐子
東 弥生	井上 彰夫	大東 静代	

★ 近代詩文の部

〔入 選〕	瀬戸内美代子	大井多鶴子	斎藤 元子	玉城 佳代
	大久保利江	大西 英子	笠井 鎮子	高力 浩子
	庄野 悦子	田淵 洋子	玉城 若菜	米本 孝枝
	藤本ひさ子	箭田 忠則	青柳ひでの	赤星美津子

天野 啓子	上野 豊吉	大崎 辰雄	大野 秀子
折田 浩子	勝瀬嘉壽子	岸 緑	木田 史子
栗山 弘子	小坂ハナエ	近藤 照子	近藤 美香
桜田 貴子	佐藤 正江	下野 順子	庄野美代子
高橋 順子	高橋美知江	武市三奈子	竹川 秀穂
竹田 照子	武樋 清子	常見 良子	富川 博之
富永美知子	豊田 米子	仁木志毛江	仁田 典子
野田 洋子	浜口 敏子	春川 登	板東タマエ
平岡 郁子	福田 和子	福永 培子	藤井フサエ
星盛 和子	丸岡 良子	丸田 三恵	森岡 禎子
森本 陽子	山口 文子	山下 美穂	横谷千代美
横堀 恵子	吉田佐知子	米田 幸子	和田富美子
中島 和子	野村 正勝	大石 正	春名 完二
小野 幸久	内藤ますみ	久保 早苗	沢村 清美
松木 和代	松本 栄次	竹内さい子	長江 裕子
河野 富子	坂東 幸男	久米 安弥	森本知世子
川端喜美子	木元ユリエ	正木 民江	斎藤 房子
坂尾 俊一	清重 和雄	佐原 武子	内山 真弓
平野 恵理	児玉 幸子	福本 茂	柴田 明
桑村 清	柴田 公代	川下小夜子	出原とし子
幸田 康代	谷本 清子	竹井 澄子	庄野 信子
岩本 雅三	高瀬 善郎	磯 富美代	熊本 吉一
楨本 理	鳥井佐知子	東條香津代	梯 周
山崎ひとみ	和田 悦代	川又 敏香	加島 俊彦
田村 久子	橋本 文子		

★ 前衛の部

〔入 選〕	竹内 政美	中川 健	馬場 康雄	木藤 裕全
	坂本 光廣	小藤 勝己	伊丹 明美	永浜 由美
	森 美代子	宮本 仁	谷口あつ子	枅富 年子
	新居 勲	新居 幸子	一宮美代子	谷崎 計治
	豊茂 安江	萱原 弘子	田中 一夫	池田紀代子
	前田 律子	田淵 浩子	山根 裕子	山本 恵美
	阿部 公恵	和田 喜代	貞松 寛子	宮内多重子
	伊丹 正子	湯藤 章皓	大坂 昌代	中川 富量

デザイン

〔審査員〕	河北 秀也		
〔招待〕	浅野 昌也		
〔賛助出品〕	坂本三千一		
〔無鑑査〕	斉藤 繁次		
〔特選〕	西 輝子	前野 淳二	
〔準特選〕	坂野美恵子	岩佐 俊彦	春野 真紀
〔入選〕	斉藤志津子	福島 康仁	斉藤 剛(2)
	芦田希早子(2)	敷島のり子	田中 智子
	鈴木 章	宮本 靖	深見満寿美
	西 真一	田中 一郎	住友 優子
	岩朝由希子	中山 清子	増田 智子
	吉本たみこ	天羽恵子(2)	寺本礼子(2)
	重清 嘉宏	宮田真由美	酒井 千佳
	山本 裕美	鈴江 芳美	藤野 誠司
	早川 知子	中村美喜(2)	前野 淳二
	木川 正美	佐川 千賀	田中 洋子
	高田 政芳	志摩修司(2)	浅野 敦司
			川崎孝志(4)
			岩本 貴志
			原田 知佳
			正木 和夫
			坂野美恵子(2)
			岡本 真紀
			前田 弥生
			有盛 香苗
			紀伊恵理子
			宗石真理子
			西山欣子(2)

徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	影 塑
1	委 員	(野 間 仁 根 家 永 駿 三郎)	委 員	
2	大 栗 旌 斤	野 間 仁 根	上 田 備 山	(太 田 三 郎 坂 東 文 夫)
3	委 員	伊 原 宇 三 郎	同 上	(太 田 三 郎 坂 鹿 内 文 夫)
4	委 員	須 田 国 太 郎	同 上	同 上
5	上 村 松 纂	田 村 孝 之 助	小 野 由 行	(太 田 三 郎 坂 東 文 夫)
6	西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 亀 太 郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤 太 郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	(太 田 三 郎 坂 東 文 夫)
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	(鈴 木 信 太 郎 野 間 仁 根)	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長 三 郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令 太 郎	同 上	(辻 東 晋 堂 坂 文 夫)
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	菅 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘 治 郎	同 上	安 田 周 三 郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初 太 郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ユキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿 岐 羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂

展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書 道	デザイン
鬼塚 信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭 山 南 木・織 田 子 青	
同 上	手 島 右 卿	
同 上	同 上	
同 上	小 坂 奇 石	
明 石 朴 景	辻 本 史 邑	
会 田 裕 宣	織 田 子 青(漢)・出 口 草 露(仮)	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒 井 天 鶴・後 藤 泰 秀・後 藤 田 香 石 田 中 双 鶴・田 中 柏 翠・富 永 眉 峰	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
明 石 朴 景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
23	松岡政信	山下大五郎	岩宮武二	井上武吉
24	山崎忠明	大沢昌助	棚橋紫水	菊池一雄
25	奥村厚一	斉藤真成	同 上	原 武典
26	梶 喜 一	島村三七雄	同 上	掛井五郎
27	上原 卓	高田 誠	伊藤知己	松村外次郎
28	黒光茂樹	中間冊夫	岩宮武二	小島広志
29	松岡政信	島田章三	同 上	保田春彦
30	黒光茂樹	田中 岑	同 上	篠崎明雄
31	河合健二	田中忠雄	同 上	江口 週
32	長谷川青澄	山口長男	(岩宮武二 伊藤知己)	一色邦彦
33	松岡政信	吉井 忠	(岩宮武二 秋山庄太郎)	柳原義達
34	山岸 純	小西保文	岩宮武二	清水九兵衛
35	樋笠数慶	荻 太郎	同 上	桜井祐一
36	坂口麻沙子	吉井淳二	同 上	土谷 武
37	下田義寛	野見山曉治	同 上	山本正道
38	同 上	須田 寿	高田誠三	清水九兵衛
39	同 上	斉藤真一	同 上	城田孝一郎
40	下保 昭	津高和一	(岩宮武二 高田誠三)	清水良治
41	橋田二郎	小松崎邦雄	奈良原一高	淀井敏夫
42	松本哲男	国領經郎	岩宮武二	木津一夫
43	山岸 純	利根山光人	三木 淳	橋本 省
44	平川敏夫	赤穴 宏	高田誠三	山崎 猛

美術工芸	書	道	デザイン
槻尾宗一	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・藤中栢翠・富永眉峰		
山脇洋二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰		
藤本能道	同上		
三井安蘇夫	同上		金野弘
六角穎雄	同上		大智浩
鈴木貫爾	同上		早川良雄
田村耕一	同上		原弘
山脇洋二	同上		田中一光
浅野陽	同上		奥野英雄
前田泰次	同上		灘本唯人
山脇洋二	同上		大高猛
中村光哉	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰・新居藍州		福田繁雄
山脇洋二	同上		永井一正
田村耕一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰 西岡楚峰		山城隆一
同上	同上		粟津潔
山下恒雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		田中一光
同上	同上		長友啓典
浅野陽	荒井天鶴・久保幽香・讃岐泰泉・春藤大耿 高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽 新居藍州・西岡楚峰		亀倉雄策
中村光哉	明石春浦・坪井正庵		伊蔵憲治
浅野陽	桜井琴風・黒野清宇		サイトウ・マコト
山下恒雄	大岡皓崖・山田伍雲・西野象山		佐藤晃一
三浦小平二	花田峰堂・小山素洞・東地滄厓		河北秀也

第44回県美術展出品・入選等状況

部 門		日本画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	書 道	デザイン	計
区 分									
出 品 数		76	284	871	61	119	974	106	2,491
人 数		66	201	153	43	82	644	78	1,271
入 選	率	60.0%	38.7%	24.0%	59.0%	69.7%	46.6%	56.6%	39.6%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特 選	2	3	3	1	2	6	2	19
	準特選	3	5	8	2	3	13	3	37
	入 選	41	102	198	33	66	435	55	930
	計	46	110	209	36	71	454	60	986
落 選	率	40.0%	61.3%	76.0%	41.0%	40.3%	53.4%	33.4%	60.4%
	落 選	30	174	662	25	48	520	46	1,505
招 待 等	招 待	8	11	14	5	8	31	1	78
	無鑑査	2	0	3	0	1	4	1	11
	特 別 出 品	0	2	1	1	0	3	0	7
	賛 出 助 品	4	15	0	0	1	0	1	21
	計	14	28	18	6	10	38	3	117
展 示 数		60	138	227	42	81	492	63	1,103

各部記錄

日 本 画 部

部 会 長 荻 野 行 夫

年 間 展 望

<部会行事>

◎ 第45回 新作日本画展（7/21～7/23 県郷土文化会館）

夏季恒例の新作発表会は、今回展で45回目の開催となった。日頃各人が真剣に勉強されていることの成果が、作品の上に頗る顕著であるのが、非常によろこばしい限りである。出品点数は76点で、前年に比べやや減少、例により優秀作品14点を選んで表彰を行った。

（新作大賞）

岡本君代「春日」は、表現形式が新しく、色感がフレッシュで感じがよい、少し軽いが個性的で、デッサン力もあった。

齊藤谿春「深秋」は、秋深まる紅葉の谷を描いている、むずかしい配色の組合せを巧みに構成していて、色調も良く深みのある力作であった。

（新 作 賞）

船戸章江「椿」は、つばきの描写がよく出来ている、構図よし、色調もやわらかく見る人に印象を与えた佳作でもあった。

橋本祐子「浜屋敷」は、旧撫養塩田の名残り、浜屋敷を写す 古い時代の建造物の表現に適切な色調が配慮され、渋くまとめているのがよかった。

香山清子「葉鶏頭」は、もう少し量感がほしいのと、色感に透明感が出れば更によかったのではないかと惜しまれる。

浜口芳春「蘇州早晩」は、中国特有の風景が、やわらかいタッチで統一されていて余情のある作品であった。

角田紅谿「峡谷」は、重量感と立体感がよく出ている。今後の進展を期待したい。

増田澄子「山峡の秋」は、空気感のある作品で、新鮮味もあり佳作であった。

（佳 作）

永井佳奈「山の季」、鈴木恵子「水仙のうつむき加減やさしくて……」、明石興子「A子」、中村百枝「白い花」、永井貞溪「秋郊」

◎ 美術講習会（8/27 徳島市中央公民館、美術工芸室）

県教育委員会主催のもとに、基礎となる写生と構成についての講習会を開いた。これによって資質の向上とお互いの飛躍に資することが出来ればと計画したものである。

募集定員40名の当初計画で周知をはかったところ、76名の申込者があった。会場収容人員の都合もあるが、出来得限りの配慮をして先着53名の人にそれぞれ連絡した。当日は生憎の台風通過とあって、遠距離の人達は交通機関がすべて止まってしまったために、出席を断念された人が多数にのぼり受講者は30名程度になった。

(講 義)

絵を描く心構えについて	荻野 行夫
構図の採り方について	橋本 正弘
日本画の精神について	長尾 弘子
写生の仕方について	中川 健
構図の組立てについて	村上 凌雪

(実 技)

写生の実技 委員全員で指導

(ま と め)

質問と討議

<第44回 県美術展> (第2期11/18~11/28 県郷土文化会館)

審査員には創画会の、平川敏夫先生にお越しを頂いた。先生は独学で日本画の修行を積み、画の道に入られた実力派作家であり、木と塔の作家とも言われて来ました。それは、そびえ立つ巨木であり、生命の満ち溢れている樹木である。

日本の風土が生んだ美しさ、豊かさ、限りなく静かで、限りなく鮮明な姿で、心象の世界を漂明して、制作された数多くの傑作を発表されて来ました。数年前からの先生の絵は新たな水墨画で、これからの人生をかけられ、さらに自然の神秘をテーマとして、制作を続けておられる現代日本画壇の実力者である。

審査を終えての総評では…… 技術的には丹念に描き込んで、しっかりした作品が多いが、もう少し自由さか思い切りの良さといった面がほしい。つまりあれもこれも描きたいと欲ばったためか、個性が埋没し、のびやかさに欠けるきらいがあるといわれた。又、上位5点(入賞作品)は、今後の皆さんの精進を願って、傾向の異なる作品を選ばれ、幅を持たせたようである。入賞点数を増やせるものであれば、2、3点を加えたいほど上位の力量は甲乙つけがたいといっておられた。

特選(徳島新聞社長賞)の鶴悦子「叢(くさむら)」は余白があって、なごやかな感じ。緩急の味があり、象徴的な気持ちを主張するというか、作者の心がにじみ出ている。

特選の西野和男「路地裏」は、内面的な気持ちがにじみ出ている。膚あいから受ける感じに好感もてる。うまさでなく、生活感を買った。

準特選3点のうち中西芳雄「かわら」は、大地にしっかり広がる川原の石の重量感と、かれんな葉の花の組み合わせが、自然の息吹、やわらかさを表現している。

「屋さがり(トレド)」の金子綾子は、かなり仕事のできる人。外国の街並みをとらえているが、腰を落ち着けて現地の人々と触れ合ったのだろう。

水墨画の泉修一「風景」は、自由でのびやか。昔の水墨画の観念にとらわれていない点がいい。(公募点数76点、内入賞5点・入選41点)

<消 息>

日本南画院が3月に改組され、森蔦苑、村上凌雪、篠原三叢、長谷寿、矢野秋溪の各氏が院の同人に推挙された。

今期における会員の皆様のご活躍を次にご紹介します。

1月	鳴門市美協新春展	鳴門四電ギャラリー	高田瑞雪
2月	第13回色紙小品展	アミコシビックセンター	篠原三叢・森蔦苑・矢野秋溪
〃	第24回日本墨彩画院展	香川県文化会館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿・長谷寿・高田瑞雪・矢野秋溪・津田津保三・増田三澄
〃	第1回冬青会日本画展	N T T鳴門ギャラリー	釣島冬樹・ほか門下生が出品
3月	日本南画院（改組第1回展）	東京・京都・大阪美術館	森蔦苑（佳作賞）受賞・篠原三叢・長谷寿・矢野秋溪・横田谿秀・江上豊溪・今川一水・青山溪月・岡本悠溪・永井貞溪
4月	第24回日春展	東京銀座・松屋	岡 英彦 入選
〃	第41回京都市美術展	京都市美術館	岡 英彦（紅賞）受賞
〃	鳴門市春の文化展	鳴門市民会館	鳴門市日本画部委員全員参加
〃	第18回徳島市文化展	県郷土文化会館	出品点数41点（選考委員・荻野行夫・長尾弘子・岡英彦）無鑑査出品：鶴悦子、奨励賞：永井貞溪・高田瑞雪（6号～100号）50点
〃	高田瑞雪喜寿日本画展	鳴門市立図書館	高田瑞雪（6号～100号）50点
5月	第29回小松島市美術展	小松島中央会館	篠原三叢
〃	第28回阿南市美術展	阿南市民会館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿・津田津保三・増田三澄
〃	鳴門市日本画部小品展	鳴門四電ギャラリー	村上凌雪・矢野秋溪・高田瑞雪・釣島冬樹
〃	第1回朱泥会展	アミコシビックセンター	長尾弘子主宰による塾生29名の作品と高岡何有遺作「美濃田の測」を特別出品として展示 鶴悦子・秋元よし子・吉崎美智子
〃	第20回溪生社水墨画展	県郷土文化会館	横田谿秀・江上豊溪ほか120点
8月	中央展出品絵画展	県郷土文化会館	森蔦苑・矢野秋溪・篠原三叢・長谷寿・今川一水・横田谿秀・江上豊溪・岡本悠溪・永井貞溪・福本和行
〃	第18回絵で見る徳島展	県郷土文化会館	篠原三叢・森蔦苑・長谷寿・矢野秋溪・横田谿秀・江上豊溪・今川一水・津田津保三・増田三澄
〃	鳴門市夏展	鳴門市四電ギャラリー	村上凌雪・高田瑞雪
9月	第18回仙台・徳島文化	県郷土文化会館	長尾弘子・木内トシ・土井洋子・

	交流女流美術展 第67回徳島県女流美術 家協会展		土方喜美子
10月	第47回有秋会展	大阪市立美術館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿
〃	第23回珀雲社日本画展	県郷土文化会館	森蔦苑・村上凌雪・篠原三叢・長 谷寿
〃	第42回鳴門市展	鳴門市民会館	鳴門市日本画部全員参加
〃	木内トシ日本画個展	県郷土文化会館	木内トシ（6号～100点）25点
11月	第21回日展	東京都美術館ほか	橋本正弘 入選 基本作品に選抜
〃	第18回阿南文化祭展	阿南市民会館	森蔦苑・篠原三叢・長谷寿・津田 津保三・増田三澄
〃	パリ日本画百人展	サロン、ド、パリ	矢野秋溪（ワールド賞）受賞
〃	岡英彦日本画展	眉峰ギャラリー	岡英彦
〃	30回記念小松島美術展	小松島市中央会館	篠原三叢・森蔦苑
〃	那賀川公方展	那賀川町民センター	篠原三叢
〃	第4回国民文化祭・全 国絵画展	埼玉県立近代美術館	鶴悦子・永井貞溪 入選
〃	創立記念協賛個展	阿南西室美術館	森蔦苑
12月	第5回春彩会日本画展	県郷土文化会館	中川健・斉藤誉・吉崎進・金子綾 子・中西芳雄・森内明子 30点
〃	第18回色紙作品展	丸新デパート	篠原三叢・森蔦苑・村上凌雪・高 田瑞雪

＝日本画部参与であられた、高岡何有先生が、平成元年2月21日に74歳で死去された。先生は徳島県展初期（昭和21年第1回県展）の頃、県展常任委員、併せて審査員を務められ貴重な存在で県美術界に貢献されてこられた。

東洋画は特に精神性の深いものといわれ 画家として常に自分の心に忠実に、また純粹に制作にあたられていた。人間は自然の中に生きるということを貫かれたような気がするのである。

今ここに先生のご功績を称えと共に、生前のご指導に対し感謝の意を捧げ、部会員一同心からご冥福をお祈りいたします。

洋 画 部

部 会 長 佐 野 比 呂 志

年 間 展 望

◎ 第44回 県美術展（11／18～23 県郷土文化会館）

審査員は新制作協会会員赤穴宏画伯、武蔵野美大教授、安井賞展審査員等活躍は著名である。

審査総評をまとめると、南国で明るい風土のためか、作品にも活潑なものを感じた。気になったのは、技術面で画一さが感じられる。もっと意図やイメージが強く出てきた方がよい。自分が好きなものを好きにかく方がよいのではないかと思う。作家一人ひとりが、自分にとって良い絵と信じるものを追求し、美意識に素直になり、あまり左右に影響されずつき進んでほしい。个性的であるということが絵画のいのちである。

また人物画を描く人は、基本となるデッサン力を十分身につけてほしい。

以上のような話であった。

第44回展は例年より出品数が多く、284点であった。110点の入選数（入選者も同数）で厳選となり、落選となった何点かの作品の中には、入選作品と変わらないものもあったと審査員も惜んでいた。

次に特選作品について審査員の寸評を加えておく。

四国放送社長貫尾崎幸代「カーニバル」は若々しい作品で描写力もある。土地の阿波おどりを見て感じとった雰囲気のように、イメージを積極的に表現に結びつけて成功している。霜田精奏「漁港風景」は、非常に地力を感じさせる。オーソドックスだが、詩情豊かな作品が人の心をうつ。静かな温かい港町の雰囲気がよくでている。林伸也「夢」は新素材のアクリルを使って、自分の狙いが明確ですっきりした表現になっている。テクニックが固まらないように、今後さまざまな実験と展開を期待したい。

準特選は、近藤英憲「船具」、大石久美子「記憶の中から」、桐島豊子「法花橋より」、森直哉「波止場」、鈴木明雄「枯れひまわり」

<会員・個人消息> ◎新会員

○天野 節 天野節個展、シベリア抑留絵日記（郷文）。

○今田 史男 美術文化展準会員出品。関西美術文化展（大阪市立美術館）。サロン・ドルージュ展（阪神百貨店）。美術文化四国展（アミコ）。今田・井口二人展、青美展（郷文）。キッシング18人展、自在派展（和光ギャラリー）。小品展（喫茶もり）。

○大神 良代 自由美術展出品。県女流美術展（郷文）。

○岡 多美子 新象展会員出品。サロン・ド・パリ展（パリ、パレ・デ・コングレ）。フランス国際美術展（パリ）。アートワールド賞展（アートワールド賞）。

- 県女流美術展、仙台徳島文化交流女美術展（郷文）。
- 岡田 君代 青美展、東光会徳島支部展（郷文）。
 - 岡田 守 全美展、世代美術展（アミコ）。
 - 賀木 道子 旺玄会展（奨励賞）。旺玄会徳島支部展（和光ギャラリー）。洋画部会員展（郷文）。
 - 黒崎 志郎 示現会展会員出品。日展入選。示現会小品展（四電ギャラリー）。洋画部会員展（郷文）。
 - 後藤田仁一 美術文化展出品。関西美術文化展（大阪市立美術館）。美術文化四国支部展、世代美術展（アミコ）。自在派展（和光ギャラリー）。
 - 後藤ユリ子 鴨島美術グループ展、青美展（郷文）。
 - 齋藤 靖子 日本板画院展同人出品。アメリカ美術賞展（ニューヨーク市、ギャラリー・モリーナ）。徳島市展招待、絵で見る徳島展（郷文）。18人展（和光ギャラリー）。
 - 笹川 五月 徳島平和美術展、青美展（郷文）。18人展（和光ギャラリー）。八万町文化展（八万コミュニティセンター）。
 - 四宮 久子 二紀展同人入選。
 - 清水 亙悝 モダンアート展会員出品。
 - 鈴江 栄治 フィナール国際美術展（東京、松坂屋）。サロン・ド・フィナール展（目黒区美術館）。
 - 鈴木 勝次 個展（四電ギャラリー）。青美展、市アンデパンダン展（郷文）。
 - 高橋 敬 創造展会員出品（大阪市立美術館）。18人展（和光ギャラリー）。
 - 津地 威汎 国展会員出品。試展（郷文）。
 - 中川隆史(正) 関西水彩画展（大阪市立美術館）。世代美術展（郷文）。燎4人展（和光ギャラリー）。
 - 中村 晴代 中央絵画クラブ展、全美展（アミコ）。徳島市文化展招待、洋画部会員展（郷文）。
 - 永山 隆二 美術文化展会友出品。関西美術文化展（大阪市立美術館）。世代美術展、美術文化四国支部展（アミコ）。自在派展（和光ギャラリー）。
 - 南城ミツ子 東光会展入選。徳島市展無鑑査、東光会徳島支部展、県教職員美術展委嘱、洋画部会員展（郷文）。丹青美術展（アミコ）。
 - 林 信夫 全美展（アミコ）。
 - ◎藤居 文子 新会員。
 - 藤川 明子 徳島市展招待。中央絵画クラブ展、全美展（アミコ）。
 - 藤田 倫子 県展入選。
 - 峯 幸子 女流美術展、洋画部会員展（郷文）。小品展（喫茶もり）。
 - 山口 和子 徳島市展招待。中央絵画クラブ展、全美展（アミコ）。洋画部会員展（郷文）。

- 佐藤 敬子 青美展、鴨島美術グループ展（郷文）。
- 関 政明 銀座大賞展（正光画廊）。日本風景展（そごう東京店）。日本の自然を描く展（上野の森美術館）。ブロードウェイ新人賞展（同ギャラリー）。小松島市展（春・秋、同公民館）。自由工房展（小松島市・やまなみ）。
- ◎福本 武子 新会員。
- 尾崎 素子 東光会展会員出品。丹青美術展（アミコ）。白鳳洋画グループ展（鳴門市立図書館）。鳴門市展（市体育館）。
- 河野 公子 青美展、徳島平和展、洋画部会員展（郷文）。新春展、チャリティバザー（鳴門四電）。18人展（和光ギャラリー）。鳴門市展（市体育館）。
- 鈴木 明雄 県展準特選。青美展、洋画部会員展（郷文）。土曜展（万代アート）。
- ◎田淵 浜子 新会員。
- 大宮 和雄 青美展、洋画部会員展（郷文）。土曜展（万代アート）。
- 中辻奈美枝 二紀展同人入選。徳島二紀展、試展、洋画部会員展、県女流美術展（郷文）。徳島二紀小品展（船場ギャラリー）。
- 住友 義彦 羽ノ浦町文化祭（町体育館）。
- 武市善次郎 青美展芸術祭優秀賞（郷文）。動くアトリエ・個展（UZU珈ギャラリー）。
- 立岩 巖 全美展、世代美術展（アミコ）。18人展（和光ギャラリー）。県教職員美術展、洋画部会員展、中央出品絵画展、石井美術の会展（郷文）。
- 富野 徳 旺玄会委員会出品。石井美術の展、青美展、平和美術展、洋画部会員展（郷文）。18人展、旺玄会徳島支部展（和光ギャラリー）。
- 仁宇 暁子 形象派展特賞（愛知県立美術館）。形象派カルトン画展（東京・アートトーコー）。平和美術展、試展、石井美術の会展、県女流美術展（郷文）。徳島形象派カルトン画展（四電ギャラリー）。18人展（和光ギャラリー）。個展（UZU珈ギャラリー）。
- 前野 亮治 県展入選。
- 松川 寛 モダンアート展会員出品。スペイン美術賞展（スペイン、カイサ・デ・バルセロナ）。燎4人展、（アトリエM絵画展（和光ギャラリー）。石井美術の会展（郷文）。
- 水間 利生 住所変更。中央美術文化展入選。洋画部会員展（郷文）。
- 毛利 谷子 東光会展入選。洋画部会員展、県女流美術展、石井美術の会展、東光会展徳島支部展（郷文）。丹青美術展（アミコ）。
- 板東 俊一 大潮会展会員出品。藍住町美術展（緑の広場）。
- 堀切 薫子 中央絵画グループ展、全美展（アミコ）。
- 三好 初子 東光会展会友出品。徳島市美術展市長賞。県女流美術展、東光会展徳島支部展、洋画部会員展（郷文）。藍住町美術展（緑の広場）。丹青美術展（アミコ）。

- 岡本 征二 試展、鴨島美術グループ展（郷文）。土曜展（万代アート）。
- 黄田 博司 示現会展会員出品。
- 志摩 政照 鴨島美術グループ展（郷文）。
- 下時治郎秀臣 白日会展会員出品。白日会名古屋展（愛知県美術館）。白日会関西展（梅田近代美術館）。鴨島美術グループ展（郷文）。
- 松尾 彰滋 白日会展会員出品。鴨島美術グループ展（郷文）。
- 真野 孝彦 青美展、鴨島美術グループ展（郷文）。
- 湯岑エミ子 鴨島美術グループ展（郷文）。鴨島町文化祭（研修センター）。
- 浅田 二郎 東光会展会員出品。中央展出品絵画展、東光会支部展、洋画部会員展（郷文）。徳島県巡回展（県下5か所）。
- 小笠 正明 旺玄会展入選、会友。旺玄会徳島支部展（和光ギャラリー）。
- 河田 安市 白日会展会員出品。
- 島川 君子 東光会展入選。青美展（郷文）。丹青美術展（アミコ）。
- 田所 米子 青美展、洋画部会員展、平和美術展（郷文）。
- 正木ツル子 東光会展入選。中央展出品絵画展、東光会支部展（郷文）。
- 金岡 義和 二科展入選。
- 川原 康孝 全美展（アミコ）。青美展（郷文）。土曜画会展、三好文化祭、三加茂町・池田町文化交流美術展（池田小体育館）。三加茂町民美術展（中央公民館）。
- 川原 真琴 土曜画会展、三好文化祭、三加茂町・池田町文化交流美術展（池田小体育館）。三加茂町民美術展（中央公民館）。
- 平尾美智子 二科展入選。
- 山口美千代 洋画部会員展（郷文）。徳島選抜洋画小品展（ギャラリー船場）。
- 長井 公雄 大阪府美術巡回展（大阪市立美術館）。八尾美術展（市労働会館）。河内百人展（西武百貨店）。

なお、会員の第44回県展出品状況については、省略しました。

<会員の計報>

- 多田青叙氏（日本水彩連盟会会員、一水会会員、洋画部監事）。
- 石原 弘氏（東光会会員、洋画部会員）。

中央はもとより、県美術界で、長い間御活躍されました両氏の御冥福を心からお祈り申し上げます。

写 真 部

部 会 長 西 條 征 二

年 間 展 望

◦第44回徳島県美術展（二期）11月18日～23日 徳島県郷土文化会館3F

本年の審査員は大阪芸術大学教授 高田誠三先生に御願ひした。長年にわたり徳島県展を審査指導をしていただいた岩宮武二先生が六月に亡くなられたので全員にて 黙禱をささげ冥福を御祈りし審査に入った。ユーモアあふれる懇切丁寧な審査が行われた。出品作品の技術的レベルは全体的に高く、以前にも増して充実し、その内容に感動した。徳島写真界の水準は高く、作品も片寄らずバラエティーに富んでいる。

他県に比べモノクロ写真が盛んな点も見逃せない。「見せてやろう」「目立とう」と言う気持ちがある 作品には、ちょっぴり残念でした。最近は高度なカメラが出揃い「だれでも写せる」、「カメラ任せの時代」と言われている。良い被写体との出会いと、いかに表現するかが求められている。これが写真に力を与える、これからは、その上に撮影者の心、背景をも投影した作品づくりを期待したいと言われた。

県美術家協会会長賞に尾崎利男「追憶」3枚モノクロ組写真、特選に荒井賢治「帰り道」。柳本正「ONE DAY」がそれぞれ選ばれた。

◦第37回 二科会写真部公募展

森賢一「ブルーライン」、榊淵魏「阿波人形芝居」、増田寿「燕子ある日、ある時」、荒井賢治「村への道」西條征二「阿波踊り」、田中節雄「阿波娘」久米健雄「水くみ」が入選を果たした。来年はぜひ多数の方の入賞をめざしたい。

◦徳島県美協写真部会倉敷撮影会

6月18日（日）倉敷撮影旅行が、晴天に恵まれ盛會に実施された。美協写真部会員45名が参加し、貸切バスにて徳島駅前東急観光前集合、午前8時出発、瀬戸大橋を渡り与島、倉敷美観地区撮影を充分に楽しみ、19時40分徳島駅前着、各人が帰路についた。

7月9日福島正仁先生の公開審査により作品コンクールが行われた。

古い街並みが続く美観地区を中心に、日本家屋、のれん、喫茶店等を新鮮な感覚でとらえた作品ばかり、組写真を含むモノクロとカラーでレベルの高い作品が目を行っている。

7月16日～7月25日の間、アミコ5F市民ギャラリーで展示した。（出品点数 135点）。

推選・特別賞 井上光雄

特 選 伊達照子、井藤光章、大野 武、安長 剛

入 選 西條征二、安長 剛、井藤光章、佐治 孝、伊達照子、増田 寿、大野 武
林 敏彦、佐藤照子

◦第40回 全国植樹祭開催記念「緑の作品コンクール」（主催徳島新聞社）

審査員：西條征二、榊淵魏、徳新写真部長

「テーマ」を良くとらえた作品、素直な感性をぶつけた意欲的な作品が多かった。

特選 前坂祥文「木陰の新緑」、野藤敏美「こいのぼり」

準特選 村沢恢子「つりばし」、岩朝十寸夫「春の道」が選ばれた。

○第23回 徳島県芸術祭

9月1日より12月25日迄各会場にて行われた。毎年各部門ごとに多数の参加があり、作品点数も増加し、内容も充実し、技術的レベルも全体的に高く、作品も片寄らず、バラエティーに富んでいる。

美術第一部門優秀賞 荒井賢治「山、海、街」大津勝治「神木」

美術第一部門新人賞 平野史子「姉妹」

○第50回 国際写真サロン

井上光雄「花ごよみ」(カラー)

四国でただ一人入選を果たした井上氏は“若い人の励みになれば”と、倉敷の風景は観光地化されていて弱さがある。そこでコスモスを合成して、現代感覚のあるモダンな表現にしてみたかったと作品の狙いを語る。

○「芬陀利華」写真集 藤井梵著

写真暦より長い酒暦を断ってカメラを持った。蓮の花の生涯を映像化し、執念を燃やした梵さん。自然の大切さを表現している。タイトルの芬陀利華とは、サンスクリット語のプンダリーカの写音で白蓮華の意である。「倶会一処」に続いて第二集目の出版である。

○福島正仁先生 美協顧問に就任

長年美協副会長を務められたが、今度辞任して美協顧問及び写真部会顧問となられる。県美術展初めより写真部会会長、美協副会長と長期に亘り指導され 会員一同感謝致しております。

主なる展覧会として次のものが開催された。

○第18回 徳島県教職員美術展

写真部審査員 酒井博司 1月20日～→月22日(日) 徳島県郷土文化会館(3F)

○全日本写真連盟徳島県本部 第4回アンデパンダン展

1月27日(金)～1月29日(日) アミコ5Fシビックセンターギャラリー

○写真展 みちのくの旅

2月8日(水)～11日(土) 徳島電気ビル四国電力相談センター

○第18回 ナルトびんぼけクラブ写真展

わが郷土。平成元年成人式から。渚。3月19日～21日 鳴門ショッピングセンタージャスコ4階特設会場

○第18回 徳島市芸術祭文化展

4月22日(土)～4月26日(水) 徳島県郷土文化会館

○15回 小松島カメラクラブ写真展

5月20日(土)～21日(日) 徳島県郷土文化会館3F

○写真集団「風」第7回作品展

5月26日(金)～28日(日) 徳島駅前アミコシビックセンター5F

◦ 第9回 写団「末知草」作品展

6月2日(金)～4日(日)。シビックセンター5Fギャラリー、内容、自然、風景など約85点。

第40回 全国植樹祭緑の作品コンクール展

5月19日～21日、J R徳島駅前徳島そごう、主催 徳島新聞社

◦ 第12回 写真同人「炎」作品展

6月9日(金)～11日(日)、駅前アミコ5F、シビックセンターギャラリー、炎賞・上野照文、前浦芳人、古井謙吉、安長剛、橋本圭祐

◦ 徳島県美術家協会写真部会作品展

7月16日～23日、徳島市シビックセンター5F市民ギャラリー、岡山県倉敷市撮影会の作品

◦ JCC フォトクラブ第二回写真展

7月14日(金)～16日(日)、徳島駅前アミコシビックセンター5F

◦ 川島老眼鏡写真クラブ写真展

8月21日(月)～24日(木)、徳島四国電力ギャラリー

◦ 第二十四回 光展

8月25日～27日、徳島県郷土文化会館3F

◦ 12回 ひまじんくらぶ写真展

9月15日(金、祝)～17日(日)、郷土文化会館3F

◦ 写真集団「渦」作品展

9月20日(水)～27日(水)、四国電力鳴門営業所ギャラリー、テーマ「鳴門慕情」

◦ 第3回 徳島花を写す会写真展

9月29日(金)～10月1日(日) 徳島県郷土文化会館

◦ 第29回 写楽会写真展

10月9日(月)～11日(水)、徳島駅前シビックセンター5Fギャラリー

◦ 第四回 写団阿波っ子写真展

10月13日(金)～10月15日(日)、アミコ5Fシビックセンターギャラリー、テーマ「ふるさとめぐり」

◦ 第42回 鳴門市展

10月21日～23日 鳴門市市民会館

◦ 第10回 写ガール徳島クラブ展

10月27日(金)～29日(日) アミコシビックセンター5Fギャラリー

◦ 日光会野外写真展

11月1日(水)～5日(日)、新町川水際公園(野外)、テーマ・第12回ふるさとの報告「水と光の徳島」

◦ 第2回 新浜写真クラブ作品展

NOS AMIS展(仲間たち)

12月3日（日）～5日（火）、徳島駅前森住文化ホール4 Fギャラリー

◦津田幸好写真展

12月4日（月）～6日（水）、徳島駅前四国電力サービスセンター、テーマ、盆の夜（超高感度の世界）

◦渭東カメラクラブ写真展

12月8日（金）～10日（日）、徳島県郷土文化会館3 F

◦中山清子写真展

12月24日（日）～28日（木）、四国電力徳島電気相談センター、テーマ「KINDER」

◦徳島新聞読者写真コンクール

一年間の長期にわたり、美協会員から多数の入賞をはたした。

（クラブ及び個人消息を部会長あてにお便り下さい）。

彫 塑 部

部 会 長 鎌 田 邦 宏

年 間 展 望

第44回県展は、茨城大学教授で一陽会彫刻部委員の山崎 猛先生に審査をお願いした。審査評としては、「作品の水準は、他県と比べて非常に高いと感じた。全体に立像が目立ち、量感のある素晴らしい作品も多かったが、習作の印象を受けた。もう一步進んでオリジナリティーを発揮して欲しい。素材は木、鉄、石、プラスチック、ガラス、石膏などさまざまなものが見られた。素材感を巧みに表現しようとするチャレンジ精神がうかがえ、今後に大きな希望ももてる。ただ石膏を使った場合、着色によってほかの素材感をだそうとしがちだが、技巧に走らず、本来もつ素材感を大切にしてほしい。作品の中に抽象作品が何点か見られほっとしている。これから抽象作品が増えてくるきざしを感じた。等身代の具象作品が多かったが、デッサン力を付けることに力を注いで貰いたい。デッサン力を養えば、全体のバランスがしっかり把握でき、構成力の向上につながる。」

また、受賞者の評としては「県知事賞の福島隆資『森の精』は、樹脂に着色したと思われる抽象作品。りょう線をうまく組み合わせており、高い構成力、彫刻のもつ、美しさを強く感じさせてくれる。準特選、山上正一の『おんな』は、大理石の美しさを巧みに表現している。構成にオリジナリティーもあり、将来が楽しみ。作品のサイズがやや小さかったのが惜まれる。小林政則『立つ』は、力強い作品で、作者の制作態度に好感ももてた。ただ、上半身の素晴らしさに比べ、下半身が少し弱いのが残念。全体のバランスがしっかりすれば、もっと良い作品になるだろう。」とのことであった。

今年の特筆すべき点は出品点数が多く、作品もバラエティーに富んでいたことである。来年はさらに多くの作品を期待したい。

部会の行事は裏年で特になかったが、会員の井下、河崎、松永3氏の活躍が目覚ましく個人消息の欄に記したように、各地の野外彫刻コンクールに出品し受賞している。

会員以外で県下で活躍している彫刻家も多いので、これから美協に入って作品出品等で共に頑張りたいと考えている。

<個人消息>

井下 俊作	新町川水際公園シンボルモニュメント優秀賞	徳島市
	六甲アイランドCITY彫刻展（市民賞）	神戸市
鎌田 邦宏	第43回二紀展	東京都美術館
	県秀作美術展	徳島県
河崎 良行	第1回美浜町国際野外彫刻ビエンナーレ	福井県美浜町
	第13回現代日本彫刻展（入選作品模型展）	宇部市

		六甲アイランドCITY彫刻展	神戸市
		近松モニュメント・彫刻マーケット展	尼崎市
		第43回二紀展	東京都美術館
		KAJIMA彫刻コンクール入選作品展（模型）	東京都・鹿島建設KIビル アナトリウム
濱口	恵	モダンアート展（版画）	東京都美術館
		関西モダンアート展（版画）	大阪府立現代美術センター
松永	勉	第6回ヘンリー・ムーア大賞展 彫刻の森美術館賞	長野県・松本美ヶ原高原美術館
		個展	大阪市・ギャラリー白
		第4回国民文化祭さいたま 国民文化祭実行委員会賞	埼玉県行田市
		第13回現代日本彫刻展模型入選	宇部市
		1989現代九州彫刻展	久留米市
		枕崎市制40周年風の芸術展優秀賞	枕崎市
		KAJJMA彫刻コンクール優秀模型入選	東京都・鹿島建設KIビル アナトリウム
		三好ヶ丘彫刻フェスタ奨励賞	愛知県
		近松モニュメント彫刻コンクールマーケット展	尼崎市
		徳島県彫刻コンクール優秀賞	徳島県
		関西行動展	大阪
		行動展	東京都美術館
		県秀作美術展	徳島県

美術工芸部

部会長 高橋 勇

年間展望

第44回県展は、東京芸術大学 助教授、三浦小平二先生に審査をお願いした。審査評としては、「全般にレベルが高いと感じた。特に染織は力作が多く、熱心さが伝わってきた。今後お願いしたいことは、制作に当たって、技術も大切だが最後はその人の教養であり、心がかかっているかである。まず感性を磨くことを心掛けてほしい。」

○犬伏 絢 「黄昏」（着物）は、伝統的な技法であるつむぎの渋さの中に近代的な感じを与える織りのち密さがある一方で、面の大胆な取り方が、より空間の広がりを見せている。

○上村 宜道 「刻線文長方皿」（陶芸）板づくりは、最近楽になったといわれるなかで秀作。柔らかい濃淡がシンプルななかにも作品を豊かに膨らませている。

○根岸 啓子 「ミュゼットのバラ」（パッチワーク）は色の取り合わせが実に上手。全体にエレガントな感じのする出来栄えだ。

○喜田 久子 「冬の詩」（着物）は絞りの労作。伝統的な半面、近代的な感じも醸し出されている。イメージの広がりもある。

○橘 恵 「雨情」（着物）は全体の階調がリズムカルで、しかも水紋の表現が実にいい。

<個人消息>

新居 猛 6月ニーチェアーXの台湾製模造品カタログに載せた（株）ニッセンを著作権侵害で京都地方裁判所に告訴した。

'89東京国際家具見本市のイベント会場、新居猛コーナーに18点招待出品

森 昌男	中部染色作家協会展	6月	愛知県博物館
森 浩	日本民芸公募展優秀賞	11月	大阪日本工芸館
松下 慶一	陶の会「焔」出品	9月	徳島シビックセンター
	日本工芸会四国支部展奨励賞	10月	高松・三越
矢野 款一	陶の会「焔」食器展出品	9月	徳島シビックセンター
	第36回日本伝統工芸展	9月	東京・三越
	一水会陶芸展入賞	10月	東京・西部
	日本工芸会支部展（NHK局長賞）	11月	高松・三越
橘 恵	四国工芸美術展出品	2月	高松インテリアモリシゲ
	徳島平和美術展	4月	徳島県郷土文化会館
西 浩子	第27回現代美術家協会四国会展	1月	三越・高松店
	第67回徳島県女流美術家協会展	9月	徳島県郷土文化会館

多智花佐代子	第28回日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館
	現代工芸四国会展	1月	高松・三越
	第28回日本現代工芸美術展香川巡回展	4月	香川文化会館
	第1回現代工芸四国会女性展	4月	高松・三越
	第4回楽絲舎織展	11月	東京桃林堂ギャラリー
松山 豊	県老人展	3月	徳島県郷土文化会館
	遺作展(森 英男)出品	4月	鳴門四電ギャラリー
	徳島陶芸会	8月	徳島シビックセンター
九十九健二	第一美術展	5月	東京・上野美術館
山本 和子	第75回光風会展	4月	東京都美術館
井後 宏	第一美術展	5月	東京・上野美術館
	日本七宝作家協会展	9月	東京・上野美術館
平井 恵子	日本現代工芸美術展入選	3月	東京都美術館
	現代工芸美術展近畿展商工会議所会頭賞	4月	京都市美術館
	現代工芸美術作品展	5月	大阪美術画廊
	楽絲舎織展	11月	東京桃林堂ギャラリー
四十宮年代	第14回日本手芸美術全国展総合三等賞	12月	東京都美術館
森 賢一	第27回現代工芸四国会三越展	1月	高松・三越
	日本現代工芸美術展	3月	東京都美術館

書 道 部

部 会 長 田 中 双 鶴

年 間 展 望

平成元年の本県書道界の現状は、県展をはじめ、数々の県内開催の展覧会に見られるように、量的には昨年を凌ぎ、且つ形式上多彩化の傾向を示している。が、一面、質的には自己の心情や持ち味を吐露する作品が多少数を増しつつあるものの、未だに師風の書廊を一步も出ないものもある。今後の研鑽によって個性豊かな独創的作品の出現を冀望する次第である。

本年県展の審査に当たられた花田、小山、東地三氏も、その総評で、この点を指摘し次のように述べている。

「全体的に上位の作品は、可成水準にあり、上下の実力差がある。手本に忠実で師風に留っている作品が少からずあった。古典を追求して自分というものに挑戦する態度を養え。」と厳しい。

又、中央展に進出の気運も、次第に醸成され、中央においても、県展で培った実力を以て堂々活躍していることは力強い。県展を主軸に養われた実力が、中央でどの程度通ずるかを試すことも意義が深い。更に大きい飛躍を期待したいものである。

◎ 県 展 (11/11~16)

審 査 員 花田 峰堂・小山 素堂・東地 滄匡

(特 選) 隅田 英二、大石 征也、吉岡 景鷗、松本 清香、高岡 晃祥
林 桂翠

(準特選) 南 溪石、佐藤 真堂、山城 美翠、富久 鳴泉、西浦千代里
薄田 玲泉、枝川 綾香、清水 嘉子、永松 春苑、多田 清芳
浜 佳香、山田 幸司

◎ 県書展 (6/1~5)

(大 賞) 佐藤 真堂

(特 選) 富永 竹香、高島 瑞峰、薄田 玲泉、鳩成 広美、沖田 唐谷
隅田 英二、佐藤 宗香、山本 清香、横谷 清亭、吉田 素川

◎ 県芸術祭 (9月~12月)

- 第50回 記念書芸院展 (8/31~9/3)
- 第12回 泉心会書作展 (9/14~17)
- 第15回 克展 (9/15~17)
- 第18回 徳島雪心会書作展 (9/15~17)
- 第19回 直心会書展 (9/22~24)
- 第34回 書協人展 (9/22~24)
- 第19回 東玄書道会展 (9/22~24)

- 第1回 長原阜鵬書作展（9/29～10/1）
- 第10回 文化書道徳島連合会展（9/30～10/1）
- 第24回 徳島清潮書道会書作展（10/19～21）
- 第19回 光輪社書作展（10/19～21）
- 城南高校OB芳墨書道展（11/3～5）
- 第2回 春藤大耿書作展（11/23～26）
- 第23回 県芸術祭参加硬筆書道展（12/12～13）
- 第10回 書道秀美展（12/15～17）
- 第10回 臨池書展（12/15～17）
- 第10回 書研社展（12/22～24）

<個人消息>

1 中央展、県外展において審査員として活躍し、審査作品を発表した人々

- 第30回 太玄書展（東京都美術館 1/11～17）
田中 双鶴、近藤 静苑、中谷 史子、中尾 勝子
- 第42回 書道芸術院展（東京都美術館 2/7～12）
西岡 楚峰
- 第25回創玄展（東京都美術館）
荒井 天鶴、久保 幽香
- 第11回 日本書道学院展（東京産業貿易センター 3/21～26）
勝瀬 景流、吉岡 景鵬
- 第6回 産経国際書展（東京サンシャイン文化会館 4/8～16）
讃岐 泰泉
- 第43回 日本書芸院展4月展（大阪市立美術館 4/14～16）
勝瀬 景流
- 青潮書道全国展（大阪市美術館 5/1～7/1）
西 南龍
- 第13回 油源全国展（マイドーム大阪 6/2～4）
勝瀬 景流
- 第6回 読売書法展（都美術館他全国巡回 8/13～19他）
勝瀬 景流
- 第52回 全日本ペン書道展（東京産業貿易センター 8/7～16）
勝瀬 景流
- 第2回 瀬戸大橋美術展（坂出美術館 9/14～17）
荒井 天鶴
- 第25回 日本硬筆書芸院展（岡山玉野市民会館 10/8～11）
勝瀬 景流
- 第5回 書のアート展（東京朝日生命ギャラリー 10/12～14）

勝瀬 景流

- 千草会展（大阪市美術館 11/18～19）
西岡 楚峰
- 第11回 東京書作展（東京セントラル美術館 12/5～10）
田中 双鶴、近藤 静苑

2 中央展、県外展に役員として作品を発表した人々

- 第30回 太玄書展（東京都美術館 1/11～17）
春藤 大耿、田村 昇鶴、笹尾 芳石
- 第17回 日本の書展招待選（東京上野の森美術館 2/4～10）
勝瀬 景流
- 第17回 日本の書展（東京都美術館 2/7～12）
久保 幽香
- 第43回 日本書芸院展（大阪市立美術館 2/10～14）
東 南光、上田 溪水、山口 華城
- 第12回 聖潤会展（岡山森川美術 3/3～5）
勝瀬 景流
- 第25回 創玄展（東京都美術館 3/7～12）
三木田 栖鶴、成尾 莊秀、長原 卓鷗、芝原 醒鶴、岸 潮風、中山 青葉
大松 碩城、荒井 彭仙
- 第22回 聖雲会展（岡山総合文化センター 3/21～26）
勝瀬 景流、吉岡 景鷗、薄田 玲泉
- 第11回 日本書道学院展（東京産業貿易センター 3/21～26）
薄田 玲泉、柁木 香雲、川下 景風、河野 真流、赤川 景舟、倉本 景雨
徳山 景城、竹内 虹舟
- 平成元年創玄作品展（村上三島記念館 4/2～6/30）
久保 幽香
- 青潮書道全国展（大阪市美術館 5/1～7/1）
高原 清泉
- 日本のかな書展（東京日本橋高島屋 5/18～23）
讃岐 泰泉
- 第41回 朝陽書道展（岡山総合文化センター 6/6～11）
勝瀬 景流、吉岡 景鷗、薄田 玲泉
- 現代の詩と書展（セントラル美術館 6/6～11）
久保 幽香
- 第33回 東方書道展（東京都美術館 7/1～6）
東 南光、上田 溪水
- 第41回 毎日展（東京都美術館 7/8～16）

- <審査会員> 久保 幽香、三木田栖鶴
 <会 員> 長原 阜鷗、成尾 莊秀、岸 潮風、芝原 醒鶴、浜 佳香
 ○第35回 全関西美術展（大阪市立美術館 7/14～30）
 <無鑑査会員> 東 南光、上田 溪水
 ○第41回 毎日四国展（愛媛美術館 7/20～25）
 <審査会員> 久保 幽香、三木田栖鶴
 <会 員> 荒井 彭仙、長原 阜鷗、成尾 莊秀、岸 潮風、芝原 醒鶴
 浜 佳香
 ○第6回 読売書法展（京都市美術館 8/22～27）
 <評 議 員> 上田 溪水
 ○創玄現代書展（セントラル美術館 10/31～11/5）
 （推 選） 久保 幽香
 （選 抜） 浜 佳香

3 中央展、県外展に入賞した人々

- 第30回 太玄書展（東京都美術館 1/11～17）
 （第30展記念賞）近藤 静苑
 <会員の部>
 （奨 励 賞） 富久 鳴泉、中西 甫子
 （新 人 賞） 清村 宗子
 <第 一 部>
 （推 選） 笠井 宣江、古郷 弘恵
 （準 推 選） 大槲 一峰、奈木 雪江、坂口 霞苑、吉田美重子
 <第 二 部>
 （特 選） 椎野 春翠、頼野よし子、福島 由佳、尾原 常子、山本 恵子
 坂口美智子、阿部 博子、岡田 妙子、田上 洋子、水口 尚子
 （準 特 選） 古郷 恵美、森 恵美、住友 優子、高田 遊苑
 ○第42回 書道芸術院展（東京都美術館 2/7～12）
 （褒 賞） 笠原 三雨
 ○第43回 日本書芸院展（大阪市立美術館 2/11～12）
 （書芸院大賞） 西岡 五峰
 （一科推薦賞） 藤村 柳葉、以西 恆心、宇山 泰鳳、能仁 華瑤
 （二科推薦賞） 赤松 幽石、海原 暁風、日下 司子、鳩成 広美
 ○第25回 創玄展（東京都美術館 3/7～12）
 （一科秀逸） 浜 佳香、山口 幽徑、多田 清芳、玉城 乾香、高岡 晃祥
 （二 科 賞） 中島 靖宗、大西 眸、勝瀬嘉寿子、近藤 照香、野口 香洋
 富士谷竹仙、横堀 恵和
 （準二科賞） 阿部 準子、大道 厚子、栗山 弘子、数藤 幸子、平尾 久代

福永 罌培風、丸岡 良子、吉本 富子、和田富美子、竹井 澄子
川人千枝美、桂本 蒼石

- 第11回 日本書道学院展（東京産業貿易センター 3/21~26）
（大賞） 薄田 玲泉
- 第6回 産経国際書展（東京サンシャイン文化会館 4/8~16）
（準大賞） 矢野 一代
（特選） 増田 愛子
（秀作） 樫原 孝子、津田 尊子、井川 敏子、藤川 円子、村口 透
岡本 美紀
- 第43回日本書芸院展4月展（大阪市立美術館 4/14~16）
（特別賞） 隅田 英二
（特選） 吉岡 景鷗、木村 瀧石
- 青潮書道全国展（大阪市美術館 5/1~7/1）
秦 照泉、大下 江波、山本 清香、森 虹村、坂東 美濟、吉本 和風
- 第33回 東方書道展（東京都美術館 7/1~6）
（褒状） 吉田 素川
- 第41回 毎日展（東京都美術館 7/8~16）
（秀作） 多田 清芳、山口 幽徑
- 関西美術展（大阪市美術館 7/14~30）
山本 清香
- 第41回 毎日四国展（愛媛美術館 7/20~25）
（秀作） 玉城 乾香
- 第6回読売書法展（京都市美術館 8/22~27）
（秀逸） 薄田 玲泉
（特選） 吉岡 景鷗、東 南光
- 第2回 瀬戸大橋美術展（坂出美術館 9/14~17）
（高松市長賞） 玉城 乾香
- 第15回 創玄現代書展（東京都美術館 11/1~5）
＜公募の部＞
（入選） 佐原 和清
- 第11回 東京書作展（東京セントラル美術館 12/5~10）
（特選） 山中 真紀
（優秀賞） 池内 直子（2点）、魚井 香光、岡島 順子、笠井 宣江
岸田いち子、小井田境子、古郷 弘江、清水 嘉子
瀬藤 豊子、竹田 和代、田中 久恵、富久 鳴泉
中谷 史子、中西 甫子、西谷 香峰、広島 章子
増田 恵子、三津 栄紅、山本 恵子、吉田美重子

渡部 利鶴

(奨励賞) 大西 由美、岡田 妙子、亀石 文苑、下村 清子、炭谷 嘉子
福島 由佳、山本 恵子

4 個 展

- 第11回 西岡楚峰傘寿展 (アミコ・シビックセンター 6/23~25)
- 長原阜鵬書作展 (アミコ・シビックセンター 9/29~10/1)
- 第2回 春藤大耿書作展 (徳島県教育会館 11/23~26)

5 海 外 展

- ユーロパリアジャパン89、日本の書展 (ベルギー 10/17~11/29)
久保 幽香

デザイン部

部会長 浅野 昌哉

年間展望

1989年7月15日～11月26日まで名古屋で開催された「世界デザイン博」は多くの入場者で賑いをみせていた。また合わせてデザインの世界でもっとも大きな国際会議「世界デザイン会議」10月18日～21日も開かれ、3,000名近くの（うち海外より1,000名余り）参加者で連日各分科会で熱っぽい討議が展開された。このように平成元年はまさに21世紀へ向けてデザインの新たなスタートともいえよう。

▶第44回県展

平成最初の県展となった第44回県美術展デザイン部門の審査員には東京の河北秀也氏を招き行われた。出品総数106点で昨年より16点の増加である。入選率56.6%で60点の入賞、入選となった。特別賞に四国女子短大生の西輝子氏が選ばれた。また坂野美恵子氏が準特選に田中一郎、天羽恵子の両氏が入選となった。審査員の河北秀也氏の審査評の中でもいわれていたように今、デザインはひとつの転換期を迎えているように思われる。今回の出品作品の中にも若い人の自由で大胆な作品が目についた。この新しい芽が大きく花開く事を願わずにはいられないものだ。

<行事>

▶第44回県展デザイン部門（第二期）11月18日～23日、郷土文化会館

審査員／河北 秀也（東京）

賛助出品／坂本三千一

招待／浅野 昌哉

無鑑査／斎藤 繁次

準特選／坂野美恵子

入選／田中 一郎、天羽 恵子

▶第18回徳島市文化展デザイン部門 4月22日～26日、郷土文化会館

選考委員／坂本三千一、福井 章、坂東 孝明

招待／浅野 昌哉、坂野美恵子、田中 一郎

無鑑査／斎藤 繁次

▶徳島県秀作巡回美術展 10月3日～11月26日

出品／坂本三千一、浅野 昌哉、溝田 治朗

▶移動県展

出品／坂野美恵子

▶藍美展 11月2日～5日、藍住町みどりの広場

出 品 / 坂本三千一、齋藤 繁次

▶美協デザイン部

千支「午」展、12月20日～1990年1月3日、シビックセンター市民ギャラリー

出 品 / 坂本三千一、福井 章、浅野 昌哉、齋藤 繁次、岩佐 雅功、田中 一郎
天羽 恵子、吉本 実、福家 治

<会員消息>

- 坂本三千一
- 中華民国設計展（ポスター招待出品）1月4日～28日、台北市立美術館
 - ペーパーウエイト展（立体、石作品）3月1日～15日、眉峰ギャラリー（徳島）
 - 中国学生援護チャリティー展（油彩）6月26日～28日、シビックセンター
 - 1989 J A G D A 平和ポスター展作品展示（B1判、P E A C E）7月28日～9月17日、ひろしま美術館他国内各地展示
 - 第48回東四国国体徳島県実行委員会
 - 広報専門委員
 - デザイン部会副部長
 - 第40回全国植樹祭ポスター審査委員
 - 徳島県立文化の森シンボルマーク審査委員
 - まちの緑化推進シンボルマーク、テーマ審査委員
 - 徳島新聞朝刊「文化欄・自作を語る」登載
 - 徳島新聞朝刊「福井章イラスト集・出版」推薦文登載
- 坂野美恵子
- 第74回二科展デザイン部門入選（東京）
 - 坂野美恵子個展、7月15日～8月31日、森珈琲店（徳島市）
 - パッケージ・グラフィック展出品、10月24日～11月19日、阿波和紙伝統産業会館（山川町）
- 福家 治
- プライベート6展出品、12月20日～25日、郷土文化会館
- 天羽 恵子
- 天羽恵子個展、9月、花杏豆（鴨島町）
 - プライベート6展出品、12月20日～25日
- 福井 章
- ペン画集「イラストの旅・徳島」徳島新聞社発行を出版、7月14日
- 浅野 昌哉
- 浅野昌哉+岡本真紀二人展出品 花杏豆（鴨島町）8月13日～27日

第44回徳島県美術展(県展)公募規定

部門 区分	日本画	洋画	写真	彫塑	美術工芸	書	道	デザイン	
搬入日	10月22日	10月21日	10月15日	10月22日	10月22日	10月14日		10月22日	
搬入先	徳島県郷土文化会館								
審査日	10月22日	10月22日	10月15日	10月22日	10月22日	10月15日		10月22日	
審査員	平川敏夫	赤穴宏	高田誠三	山崎猛	三浦小平二	花田峰堂 小東山地素洞		河北秀也	
出品料	協会員 1点目 2,000円 その他の方 1点目 3,000円 ・2点目からはすべて 1,000円								
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> 未公開作品に限る 点数は制限なし 小・中学校在学者は出品できない 20号以上 100号まで、横幅2m以内、額・枠張り(ガラス不可) 	同左	<ul style="list-style-type: none"> 組・単写真とも画面サイズ、半切以上(カラーは印刷に限る) 無鑑査以上は画面サイズ半切以上、単写真に限る 襖張り・額(組写真は1パネルに全作品をレイアウトしたもの又は全作品を固定したもの) 	同左	<ul style="list-style-type: none"> 高さ2m×幅1.5m×奥行1.5m 重量200kg以内 材料は自由、展示不可能なものに限る 	同左	<ul style="list-style-type: none"> 半切又は全紙横$\frac{3}{4}$以上仕上げ面積が$147m^2(16坪)$以内縦・横自由(例) 61cm(2尺)×242cm(8尺) 2.2×ヨコ1.879cm(2.6尺)×181cm(6尺) 91cm(3尺)×161cm(5.3尺) 121cm(4尺)×121cm(4尺) 木・竹・金工・陶磁・漆器・染色・織物・人形など 	同左	<ul style="list-style-type: none"> B1パネル 横728×縦1,030ミリ 厚さ25ミリ程度 課題は自由(実在の商品名・会社名等は除く)
入賞	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 3点 準特選 5点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 4点 準特選 8点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 1点 準特選 2点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 特選 若干名	特別賞 1点 特選 6点 準特選 13点 特選 若干名		特別賞 1点 特選 2点 準特選 3点 特選 若干名	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること。 展示作品は一期は11月16日(木)、二期は11月23日(木)の午後5時から午後6時までに搬出すること。 所定の期日までに搬出しない場合は、主催者において処分する。 								

第44回県美術展賛助出品者名

〔日本画〕

篠原 三 叢
 森 田 三 苑
 高 島 瑞 雪
 釣 冬 樹

〔洋画〕

浅田 二 郎
 天 野 節

今 田 史 男
 大 神 良 代
 岡 柏 多 実 子
 柏 木 雅 雄
 河 田 安 市
 黒 崎 志 郎
 後 藤 田 仁 一
 鈴 木 勝 次
 武 市 善 次郎

津 地 威 汎
 板 東 俊 一
 栴 田 川 務
 松 川 寛

〔美術工芸〕

村 上 正 典

〔デザイン〕

坂 本 三千一

博美展博美賞受賞者一覽 (昭和41~63)

年度	回	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美 術 工 芸	書 道	商 業 美 術 (デザイン)
41	7	西岡 範子	高橋 敬	平山 成美	細川 直毅	森 浩	長原 阜鶴	
42	8	中川 健	長條 公子	吉田 紀夫	榊原 八重美	〃	長江 清幽	
43	9	天羽 成芳	浜 正寛	中西 定雄	谷村 薫子	長條 公子	渡辺 草石	
44	10	片岡 良治	坂 東弘憲	川上 健司	小野寺 穰	大西 先	成尾 莊秀	
45	11	長谷 寿	〃	原田 敏雄	松永 勉	松下 雄介	芝原 醒鶴	
46	12	真鍋 学	霜田 精奏	〃	霜田 精奏	〃	喜多村 成暎	
47	13	〃	関 政明	隅地 通雄	玉田 修平	〃	中口 操	
48	14	今川 一水	小梯 薦子	矢口 保二	吉田 伯美	〃	田中 美智子	糸井 由美子
49	15	大久保 雅生	岡久 薫	吉田 正勝	井藤 信正	〃	中尾 勝子	永井 道子
50	16	釣島 冬樹	真野 孝彦	大西 健一	露口 幾也	〃	久米 聴香	松波 美子
51	17	吉崎 進	矢本次郎	小池 良洋	美濃 和子	多智花 佐代子	山本 寛水	森 敏香
52	18	大久保 雅生	四宮 久子	湯本 一生	榎本 宏子	香川 文孝	大松 静子	増田 伸寛
53	19	小松 久子	島川 清	東条 かつ子	中岡 陽子	〃	佐野 天靖	浅野 昌哉
54	20	日浦 猛史	四宮 久子	森 貢	伊勢 洋子	松下 慶一	長江 頌石	永井 道子
〃	〃	西野 和男	岡田 守	東条 かつ子	(該当者なし)	多智花 佐代子	鈴木 郁子	竹森 陽一
55	21	中西 芳雄	宮本 陽子	林 敏彦	瀬部 瑞城	香川 文孝	武市 鳴雲	増田 和夫
56	22	佐々木 文子	藤川 明子	〃	(該当者なし)	松下 慶一	佐原 和清	田村 千代子
57	23	金子 綾子	〃	〃	井上 史朗	日浦 久代	表原 輝実	寺本 礼子

年度	回	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑	美術工芸	書 道	商 業 美 術 (デザイン)
58	24	中 川 正 志	藤 川 明 子	尾 崎 孝 幸	瀬 部 瑞 城	山 本 和 子	広 島 章 子	藤 本 孝 明
59	25	井 原 順 子	森 史 人	田 村 泰 弘	佐 藤 敬 子	原 田 史 郎	豊 田 乾 香	加 島 由 季
"	"	大賞 鶴 悦 子	林 伸 也	佐 治 孝	蒔 田 寿	松 下 慶 一	中 尾 勝 子	猪 井 秋 人
60	26	"	真 野 孝 彦	橋 本 圭 祐	"	矢 口 武 之	大 松 静 子	森 本 尋 子
61	27	金 子 綾 子	吉 永 房 子	前 浦 芳 久	渋谷 吉 昭	阿 部 和 代	中 尾 勝 子	木 川 隆 志
62	28	原 郷 由 美 子	杉 本 英 治	菅 蔵 数 久	吉 田 真 理 子	岡 部 育 子	玉 城 乾 香	"
63	29	岩 瀬 洋 子	桑 原 純 子	増 田 寿	柳 沢 悦 子	井 村 アイ子	玉 城 乾 香	寺 本 礼 子
"	"	大賞 柳 田 一 子	原 田 チエ子	荒 井 賢 治	三 木 健 二	富 永 和 代	大 松 華 雪	斎 藤 繁 次

博美展は29回展をもって休止となりました。

あ と が き

1990美術年報をおとどけいたします。

21世紀もいよいよ近づきまして、地球環境もいろいろな意味で問いなおされています。

“文化のための1パーセント”という予算が官庁にはあって、公共建築を作った場合、その総工費の1パーセントを文化のために使うということも行われています。具体的には彫刻を購入して玄関先に取りつけたりすることですが、現在工事中の新宿の都庁舎の場合30億円が彫刻に充てられるそうです。

本県でも本年度を文化元年と県知事が表明したりしております。皆さんでこれからの文化を築いて行きたいものだと思います。

例年のとおり、各部長から各部に関する1年間の記録をご執筆いただきました。また、表紙は写真部の井上光雄氏からいただきました。

会員の方々におかれましては、それぞれの立場で創作活動に励まれ、本県の美術文化の振興のために尽されますことを祈願いたしております。

平成 2 年 3 月

県美術家協会事務局

平成 2 年 3 月 30 日 印刷

平成 2 年 3 月 31 日 発行

編集者 清水 博

装幀者 井上 光雄

発行人 松本 富夫

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会